



「イノベーターティブ・リーダーの会」 メンバー募集

共催： T&Tパートナーズ
株式会社経済産業新報社
後援： ICG国際コンサルタンツグループ
NPO法人内部統制評価機構

2013年4月1日



目次

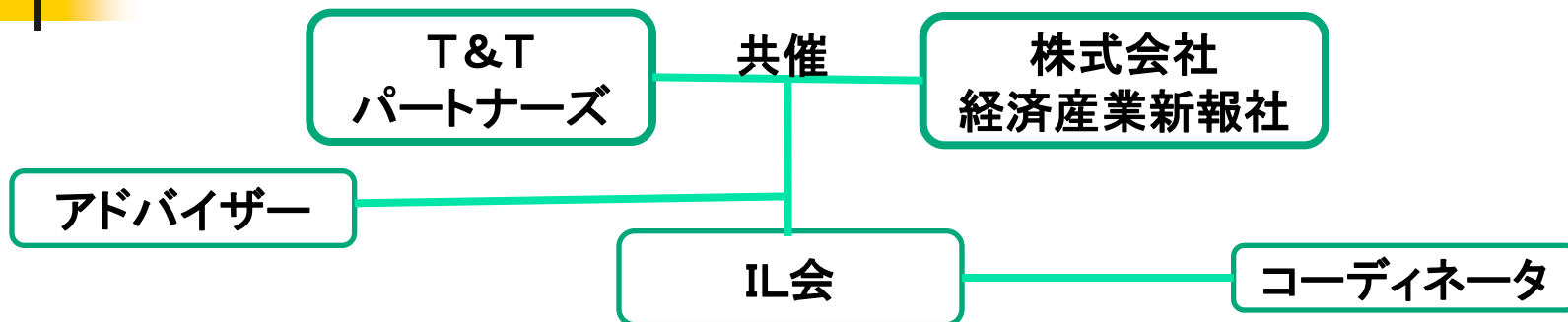
- 狙いと目的
- 組織とアドバイザー
- イノベーター・リーダーの活動
- 入会のメリット
- 参加費用
- 初年度のスケジュール(予定)
- コーディネーター
- 申込書



狙いと目的

1. 時代の変化に挑戦するリーダーを集め、あらゆる業界の多様な知を結集し、知の経営（新しいナレッジマネジメントとリスクマネジメントの融合）を学習し、イノベーションと事業創造を起こす経営を考える会（イノベティブ・リーダーの会：IL会）です。
2. 次世代のわが国を担う企業群を養成し、日本の経済・産業・経営への貢献を目指します。

組織とアドバイザー



アドバイザー(予定):

- 安達俊久: 日本ベンチャーキャピタル協会会長(伊藤忠TV社長)
- 有賀貞一: AITコンサルティング代表取締役、前(株)ミスミ本社グループ副社長
- 飯島英胤: 東レ株式会社 特別顧問
- 稲永 忍: ものづくり大学学長、株式会社トーエル常勤特別顧問
- 岡田秀一: 前経産審議官、元小泉首相秘書官、NTTデータ経営研究所顧問
- 竹内弘之: (社)全日本能率連盟会長、(社)中部産業連盟副会長
- 田村達也: NP0日本コーポレートガバナンス・ネットワーク代表、元日銀理事
- 羽田祐一: 元日本電気(株)専務、元NECトーキン(株)社長
- 播磨 崇: ITC協会会長、元富士通株式会社常務取締役
- 三田征史: (財)日本科学技術連盟専務理事、他



イノベーター・リーダーの活動

1. 各リーダーは、年6回程度の学習会に参加しイノベーションに関わる意見交換を行う。
2. 年に1回は、改善の事例や改革の方向性、また新しい経営概念等の学習成果を、「経済産業新報」に発表し、世論に向け発信・提言する。
3. 学習会や懇親会において、多様な知の共有を図り、参加リーダー企業の問題や課題解決に資する。
4. 参加者の多数決によって、イノベーター企業の研究等の実施を企画する。
5. コーディネータ3人のファシリテート、アドバイザーの指導、後援企業の支援を受けて、参加企業のイノベーションや事業創造に繋げる。



入会のメリット

1. 学習会への参加〔初年度スケジュール(予定)を参照〕による経営力の強化。
2. 学習の効果を「経済産業新報」に掲載することによる社会的な貢献価値。
3. 参加者は、随時「経済産業新報」に、割引で意見発表ができる。
4. 内閣官房、総務省、経産省、外務省、財務省等の官僚との意見交換会。
5. T&TPARTNERS主催のベストプラクティス研究会に半額参加できる。
6. 内部統制評価機構の業務の有効性・効率性を目的にした内部統制評価研修に半額参加できる。



参加費用

1、参加費用(消費税は別途):

- ①個人会員:年12万円(懇親会費別途)
- ②法人会員:年24万円(3名まで参加可能)

2、特典:

①T&T PARTNERSパートナー会員:

—上記の会費の半額

②経済産業新報購読者(企業)、国際コンサルタンツグループ

会員、内部統制評価機構会員:

—会費割引:1—①年8万円に、1—②年16万円に割引



初年度スケジュール(予定)

1、2013年1月1日、弊会創設、4月1日参加者募集開始。

2、学習会スケジュール:

- ① 「ドラッカーに学び、ドラッカーを超える実践力」勉強会
—2013年7月から隔月
- ② 懇親会:新年会、暑気払い、忘年会等
- ③ イノベーティブ企業研究会(会員の合意による)
- ④ トップ官僚との意見交換会(会員の要請による)
- ⑤ 経営改善相談会(随時)
- ⑥ その他(T&T PARTNERS主催のベストプラクティス研究会への参加等)

コーディネータ(1)

1、高梨 智弘(たかなし ともひろ)

T&T PARTNERS 会長、公認会計士、株式会社日本総合研究所フェロー
国立大学法人新潟大学大学院技術経営研究科特任教授

杏林大学総合政策学部非常勤講師

NPO法人ITコーディネータ協会理事、NPO法人内部統制評価機構理事長

国際コンサルタンツグループ会長、日本ナレッジ・マネジメント学会副理事長

文部科学省独立行政法人評価委員会委員(科学技術・学術分科会担当、日本学術振興会担当)

専門:経営コンサルティング、企業研修、企業顧問を主に行っている。特に経営品質・ベンチマーキング・BPM・内部統制・IT経営・知の経営(ナレッジマネジメント)・適職診断ハーマンモデル・人財マネジメント、MOT等の指導を専門にしている。中堅中小企業の実践力を高める経営改善・改革で評判。

著書:「知の経営～透き通った組織～」(白桃書房),2009(日本危機管理学会学術貢献賞受賞 2010.5)、「ベンチマーキング入門」(生産性出版),2006、「弓と矢の国」2012(電子出版)、「図解わかる! ナレッジマネジメント」(ダイヤモンド社)2000、「これから求められる管理者捨てられる管理者」(こう書房), 2001他多数

コーディネータ(2)

2、高橋成知(タカハシ マサトモ) 経済産業新報社社長

<略歴> 学生時代から通産新報社を手伝い、大学卒業と同時に入社(1976年)。その後、産経新聞代理店担当部長、出版局長、編集次長、情報企画部次長を経て1982年専務取締役、1997年前社長逝去に伴い、代表取締役就任。2011年社名と新聞を「経済産業新報」に変更。

2012年1月からカラータブロイド判「Keizai Shinpo」と新聞をリニューアル・モデルチェンジ、ネット時代のクオリティペーパー作りに邁進している。

<手掛けた紙面>

「第5世代コンピュータ計画」、「新情報処理開発計画」、「リアル・ワールド・コンピューティング計画」、「サンシャイン計画」など国の大型プロジェクトや機械情報産業局関連プロジェクトを軒並み手がける

<出版>

時事放談「世相は踊る」(細川隆元VS斎藤栄三郎)、「輝け新日本経済」(加藤寛VS斎藤栄三郎)、「不況からの脱出法」(斎藤栄三郎)、「最も適切な言葉」(松尾博厚)、「サービス産業勝利の方程式、上質サービス企業の法則」(経産省監修)、「通産新報縮刷版1-11」他

<外部役職>

昭和経済会理事、IT記者会理事、日本ナレッジ・マネジメント協会理事などを歴任。

コーディネータ(3)

3. 山本行雄(やまもと・ゆきお)

大蔵省(現・財務省)広報誌「ファイナンス」編集を経て、日刊工業新聞社入社。都内支局を経験の後、兜クラブ(東京証券取引所)、機械倶楽部(経団連)、東商記者クラブ(日本商工会議所)、通産記者会(現・経済産業省)、日銀記者クラブ(日本銀行)、建設記者会(現・国土交通省)等で新聞記者。出版局に移り、月刊誌「工場管理」、同「電子技術」で雑誌記者。同「ファシリティマネジメント」、同「ISOマネジメント」の創刊に携わり、両誌の編集長を経験の後、(社)日本産業広告協会に専務理事として出向。日刊工業新聞社に戻り、論説委員。2007年定年退職。

<主な著書>

中国ビジネス交流協会参与、「三菱重工の生産技術革新」、「CSナンバーワン・カンパニー」、「ホンダ用語でホンダを語ろう」(以上、日刊工業新聞社刊)、「品質大国ニッポンの危機」(かんき出版刊)など多数。

<現職>

フリージャーナリスト、「経済産業新報」論説委員、(一社)外交政策センター理事、(一社)実践リスクマネジメント協会理事、(NPO法人)日本ナレッジマネジメント協会理事、(同)中国ビジネス交流協会参与、(NPO)地域共生研究機構パートナーなどを務める。



申込書

◇ お申し込みは、添付申込書でお願い致します。